

ペット飼い主の課題

ペットを飼っている方は「災害時の対応」を考えていますか？

今、日本にいる犬と猫の数は・・・子供の数の1.2倍以上です。
高齢化と共にペットの数が増えています。

* 犬猫の数：1979万1000頭（ペットフード協会／2015年調べ）。

* 15歳未満の子供の数：1605万人（総務省／2016年推計）。

環境省では東日本大震災の経験から、平成25年6月「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」を策定し、それを受け各自治体が地域の状況に応じた「ペットと避難のためのマニュアル」を作成しています。災害時の対応には、「飼い主」、「自治会・町内会」、「地方自治体」、「獣医師会」、「ボランティア」等、それぞれの役割があり、平常時に役割を明確にし、準備しておかなければなりません。

ペットを飼っている方は、災害時にペットを家に残して避難しますか？
ペットと共に避難するなら、飼い主にも準備が必要です。

① 飼い主自身の飼育マナーと ペットのしつけ・健康管理

- ・飼い主以外の人や他の動物に攻撃的にならず、無駄吠えしないようにしつける。
- ・ケージやクレート内での生活に慣らす

② ペットが迷子にならないための対策

- ・マイクロチップや迷子札を装着し、飼い主がわかるようにする。

③ ペット用の避難用品や備蓄品の確保

- ・食餌、水、常備薬など生命にかかわるもの。
- ・ケージ、クレート、首輪、リード、食器、トイレ用品、毛布、タオルなど生活必需品。

④ 避難所や避難ルートの確認等の準備

- ・決められている避難所がペット同行避難を認めているか確認する。（実際にはかなり少ない）
- ・ペット同行避難できない場合の対処方法を想定しておく。

⑤ 「飼い主会」等の飼い主ネットワーク構築。

- ・災害時には、必要物資や要望の伝達、救援物資割り振りなど、飼い主側も単独では困難になりネットワークを作り組織化することが求められます。（川崎市は飼い主委員会設置を推奨）
- ・そのためにも平常時からペット友達の輪を作っておくことは、災害時に有効です。

自治体やボランティアの支援が入るまで5日、仮設住宅建設まで数ヶ月はかかります。
ペットと共に最低5日間持ちこたえられるだけの準備が必要です。